県営引野住宅４号館ほか５棟建替その他工事に伴う基本設計及び１期実施設計委託の公募型建築プロポーザルの審査結果について

１　特定結果

次のとおり，特定者及び次点者を特定しました。

特定者	村田相互・ＵＩＤ設計共同体 代表構成員　株式会社村田相互設計 （広島市中区舟入南四丁目 20 番８号） 構成員　株式会社ＵＩＤ （福山市木之庄町 3-10-20）
次点者	土井・ナフアーキテクト＆デザイン設計共同体 代表構成員　土井一秀建築設計事務所 （広島市西区庚午中 3-4-25-202） 構成員　ナフ・アーキテクトアンドデザイン有限会社 （広島市中区西平塚町 8-12-203）

２　講評

(1) 概要

このプロポーザルは，昭和 40 年代に造成された福山市引野町に位置する公営住宅団地において，老朽化に伴う建替及び移転集約を進めるため，技術力や創造力はもとより，柔軟な発想力にも優れた設計者を選定するために実施されました。

設計にあたり，住宅周囲の環境や立地条件，長期に渡る工事期間等の条件から，①「みどり豊かでゆとりのある住宅地における団地内コミュニティの活性化」について，②「長期に渡る工事期間中における住民の居住環境及び安全性等への配慮」について，③「実現性の高いコストの縮減策」についての３つのテーマを設定し，公営住宅という住まいのセーフティネットとしての機能性や住環境への配慮はもとより，団地コミュニティの活性化が期待できるハード面，ソフト面の両面での提案による，魅力的な公営住宅団地の提案を求めました。

(2) 最終審査概要（Ａ者～Ｅ者は最終審査時に割り当てられた発表者名を示しています。）

最終審査では，技術提案書等に基づき，１者当たり発表 10 分・質疑応答 15 分の公開ヒアリングによる審査を行いました。

その後，事務局の設定した審議プロセスに沿って公平公正に審査部会を開催しました。最初に全審査委員がそれぞれの提案者に対する印象を述べ，３つのテーマに対する評価について一同の認識を共有し深めた上で，議論の対象に残したいと考える提案へ予備投票を行い，審査委員７名が２票ずつ投じました。予備投票の結果を参考としたうえで，改めて議論を深めた後，特定者の候補がＤ者，Ｅ者に絞られ，その後，各々の優位性について議論した結果，全審査委員が審査部会の総意として，Ｅ者を特定者とし，Ｄ者を次点者としました。

(3) 講評

特定者（Ｅ者）の提案は，予備投票において，最多の５票を獲得しました。配置計画では住棟を東西軸に対して雁行配置とし，大胆に１階部分をピロティとすることで敷地に一体性を出し，ピロティを介する視線の抜けによって住民相互の交流や集会所でのアクティビティを団地全体に表象させる計画が評価されました。また，車両動線は中央のメインアプローチからの合理的なアクセスとする一方，敷地の外周部には，遊歩道を設けることで，みどり豊かな周辺環境を最も身近な形で取り込んでいること等が評価されました。生活支援サービスを担う事業者

選定等のソフト面の提案は，コストを含めた実現可能性やプロセスの具体化が必要なものの，プレゼンテーション・ヒアリングでは，コミュニティデザイナーと連携し，支援を受けながら団地内コミュニティの活性化に繋がる仕組みづくりを作っていくという点を重要視した積極的な姿勢が感じられ，今後関係者と具体的な検討を行う上でソフト面での案の発展にも期待がもてるとの評価を得ました。
　また，ピロティとすることによるコストアップや倉庫の配置及び障がい者や高齢者の避難等の懸念についての応答では，柔軟な対応が可能な旨が確認され，議論を重ねた結果，今後これらを含めた懸念事項は，具体な設計段階で調整をしながら，より魅力的な案に深化させる可能性を期待できるとし，審査部会の総意として特定者の決定に至りました。

　次点者（Ｄ者）の提案は，予備投票では，特定者に次ぐ４票を獲得しました。南北に抜けるプロムナードが象徴的であり，コの字型の住棟配置により作られるコミュニティガーデンとプロムナードが緩くつながり，段階的なコミュニティの形成が意図されていることや，コストにも配慮した住棟ボリュームに加えて，リバーシブルプランによる住戸単位での柔軟性が期待できる等，プロムナードという強い象徴性を有しながらもハード，ソフト両面でバランスの取れた案であることが評価されました。
　また，他者の提案は団地コミュニティの活性化のために何らかの用途を意図した能動的な活動の場を提供する案である中で，Ｄ者の提案は,プロムナード内でのアトラクターをきっかけとした住民相互の受動的なつながりを意図するものとなっており，日常の中で団地内コミュニティを無理なく醸成し，また持続させていくという点は共感を得るものでした。
　一方で，プロムナード内のアトラクターについては，一般的な遊具等の配置にとどまるものであることや，プロムナード内での住民主体の緩いつながりを意図した案であるが故に，期待したコミュニティの活性化まで寄与するのか懸念が残ったほか，高台という閉鎖的な立地特性を踏まえた場合に，端部が完結したプロムナードの必然性という点を最後まで払拭するに至らず惜しくも次点となりました。

　非特定者（Ａ者）の提案は，予備投票では１票を獲得するに留まりました。敷地の中央に大きく展開された広場を，敢えて閉鎖的に囲む特徴的な住棟配置は，魅力的な側面がある一方，意図した使用がなされるかという懸念を内包した案であることで評価が分かれました。また，駐車場と歩行者動線の交錯についての懸念も払しょくするに至らず，結果として予備投票後に議論の対象として残ることができませんでした。

　非特定者（Ｂ者）の提案は，予備投票では２票を獲得しました。多目的広場を外部からもアクセスの容易な市道の面した南東部に配置することで団地コミュニティの活性化へつなげる住棟配置計画が評価されたほか，住棟のボリュームや工期ごとの工事エリアの設定等，総合的なバランスが優れており，実現性の高い案として評価されました。一方で，ソフト面での提案や,新しい団地という観点では従来の公営住宅団地のイメージを覆すには至らず，予備投票後の議論の対象として残ることができませんでした。

　非特定者（Ｃ者）の提案は，予備投票では２票を獲得しました。 経済的自立を伴った団地コミュニティの仕組みの提案に加え，既存住棟を利用したコミュニティの活性化に必要な機能の仮整備を行うアクションプログラム等，団地コミュニティの活性化に寄与する提案においては他者と比較して具体的かつ先鋭的な提案がなされていたことが評価されました。一方で，それらの実現可能性についての懸念を払拭するに至らず，予備投票後の議論の対象として惜しくも残ることができませんでした。しかし，ソフト面でチャレンジングな提案が多くなされた部

分は５者の中で最も評価が高く，議論の対象として進めるか否か議論が尽くされました。

３　審議経過等

（１）審議内容

ア　評価基準，評価要領の策定

①「みどり豊かでゆとりのある住宅地における団地内コミュニティの活性化」について，②「長期に渡る工事期間中における住民の居住環境及び安全性等への配慮」について，③「実現性の高いコストの縮減策」についての３つの評価テーマを含め，評価基準及び評価要領等を策定

イ　技術提案書の提出者の選定（一次審査）

参加表明書の提出者（８者）について，技術提案書の提出者を選定するための基準による評価を行い，技術提案書の提出者（５者）を選定

ウ　技術提案書の特定（最終審査）

提出された技術提案書（５者）について，公開ヒアリングを実施した上で，技術提案書を特定するための基準による評価を行い，特定者及び次点者各１者を特定

［審議経過］

令和２年７月１日	審査部会（第１回）	評価基準，評価要領の策定
令和２年７月10日	公募型建築プロポーザル公示	
令和２年８月12日	参加表明書等の提出期限	８者提出
令和２年８月26日	審査部会（第２回）	技術提案書の提出者の選定（５者）
令和２年９月４日	技術提案書の提出要請	
令和２年９月18日	技術提案書の提出期限	５者提出
令和２年10月４日	審査部会（第３回）	公開ヒアリング，技術提案書の特定

（２）審査部会構成

［審査部会委員（順不同・敬称略）］

委員区分	氏　名	所　属　等
部会長	こうち　ひろし 河内　浩志	広島工業大学　環境学部 建築デザイン学科　教授
委員	おかべ　しげお 岡辺　重雄	福山市立大学　都市経営学部 都市経営学科　教授
委員	すみくら　ひであき 角倉　英明	広島大学大学院 先進理工系科学研究科　准教授
委員	やまだ　たかのぶ 山田　孝延	日本建築家協会中国支部　表彰委員長
委員	わたなべ　けいし 渡邉　桂司	福山市建設局建築部長
委員	まとば　ひろあき 的場　弘明	広島県土木建築局総括官（建築技術）
委員	こうの　りゅう 河野　龍	広島県土木建築局住宅課長／施設主管課